

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520110

研究課題名(和文)17世紀フランスにおける歴史画と挿絵本との関係についての総合的研究

研究課題名(英文)General Study about the contribution of the illustrations over the historical paintings of the Seventeenth Century in France

研究代表者

木村 三郎(Kimura, Saburo)

日本大学・芸術学部・教授

研究者番号：00130477

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、フランス17世紀における挿絵と歴史画との関係について、木村は、この時代、パリで最も高い完成度を誇ると称されたラ・ヴリリエール邸ギャラリーに展示された歴史画についての研究を行った。小野崎は、この時代の歴史画にとって重要な図像着想源であった、プルタルコス『対比列伝』がどのような歴史的背景を持つたかについての研究を行った。栗田は、プッサン作《幼いピュロス王の救出(1634年)》について詩学と倫理学の交錯という視点からの研究を行った。安室は、フランソワ・ジェラルド作《パリに入城するアンリ4世》(1817年、ヴェルサイユ宮国立美術館蔵)の、作品の受容と先行研究史についての調査研究を行った。

研究成果の概要(英文)：Saburo Kimura analyzed the historical painting in the Gallery of La Vrilliere, the most beautiful in Paris in the first half of the 17th century. He translated in Japanese the description by Henri SAUVAL, published around 1655, about the Gallery, constructed by le Marquis de la Vrilliere between 1635-1650.

Yasuhito Onozaki studied the history of the translation of the Paralel Lives by Plutarch from antiquity through Italy to the 17th century France. He explained the meaning of the important French translation by Amyot which Poussin consulted for his several historical paintings. Hidenori Kurita proposed some visual sources concerning The Saving of the Infant Phyrhus(1634, Louvre) by Poussin, and also made some remarks about the preparatory drawings from the point of virtue and narration. Kanako Azuchi studied The Entry of Henry IV into Paris by Francois Gerard(Chateau de Versailles, 1817), from the point of the reception and previous studies.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：歴史画 挿絵 ラ・ヴリリエール 対比列伝 プルタルコス プッサン ジェラルド アルカディア

## 1. 研究開始当初の背景

### 先行研究の状況

・西洋近世美術史研究においては、古代史に関わる図像学については、HALL 著のようなハンドブック的な小事典を除けば、Pigler 著 *Barockthemen*(1974) と J.D.Reid 著 *The Oxford Guide to Classical Mythology in the Arts, 1300-1990s* (1993) が基礎資料であるが、挿絵との関連も調査した基礎研究は存在していない。世俗図像については、R.van Marle 著 *Iconographie de l'art profane au moyen-age et à la Renaissance et la décoration des demeures*(1931-32) が基本図書であるが、古代史については充実していない。

・先行研究として位置づけられる展覧会としては、*Triomphe et mort du héros : la peinture d'histoire en Europe de Rubens à Manet*, Cologne,Zurich(1988) を指摘できるが、挿絵論が中心とはなっていない。言い換えれば、フランス17世紀絵画を多数展示している、ルーヴル美術館の中でも大きな比重を占める歴史画の図像研究は、未開拓の研究分野だということができる。

## 2. 研究の目的

フランス17世紀美術においては、上流市民階級の勃興とともに、古代史上の主人公に求められた徳の範例 (EXEMPLUM VIRTUTIS) を絵画化する例が増加する。それらの典拠となったプルタルコス、リウイウス、タキトゥス、ウァレリウス・マクスィムスらの著作も、16世紀以降印刷術の発展とともに出版数が増大したことはよく知られている。それらの古代史の著作には、聖書やオウィディウスの『変身物語』と同様に、しばしば挿絵が付されて出版された。画家たちが描いた歴史画 (Peinture d'histoire) とこれらの挿絵との関係について、美術史、出版史、古典文学、思想史からの視野も入れた総合的研究を行った。

## 3. 研究の方法

- 1) 研究協力者も含めた共同研究の方法を採用した。
- 2) フランス、イギリス、ベルギーなどの海外図書館での調査研究、関連図像作品、文献の収集を行った。
- 3) 過去の科研報告書の実績に基づき、共同研究者の専門性を生かした、研究の役割分担を行った。
- 4) メールを中心とした情報交換と討議した。
- 5) 関係所属機関の紀要等での論文の発表を行った。
- 6) 研究成果の一部を、「日本大学デジタル・ミュージアム」並びに「木村三郎ゼミ」のHPに、デジタル・アーカイブとして公開した。

## 4. 研究成果

木村三郎 論文「ラ・ヴリリエール邸ギャラリーとローマ古代史を描く歴史画」フランスの17世紀に、「フランス全土のものとは比べても、最も高い完成度を誇る」と称された、ラ・ヴリリエール邸ギャラリーがあった。そこには、同時代のイタリアの著名な画家たちの作品だけでなく、フランスの画家プッサンの作例も陳列された。本研究では、このコレクションについての研究と、それが後に成立する、王立絵画彫刻アカデミーへ与えた影響を分析した。

木村三郎・論文「ナターレ・コンティ{神話の手引き(寓話解釈の10巻の書)}について・・・フランス17世紀絵画史研究の視点から」コンティにとって、古い神話というものは、手ほどきをしてもらった者たちには、自然史と倫理哲学の象徴的で寓意的な奥義を教えてくれるものであった。一方で、古典や偽古典の物語のうちで最も典拠がいがわしく、最も奇怪だともいえるこの翻案は、究極の奥義が極まった知識として開陳されており、注釈が施されている。フランス17世紀にける歴史画は、時に神話図像上のモチーフがそこに混在する場合があります、その歴史的な事情を分析した。

小野崎康裕・論文「図像着想源としてのプルタルコス『対比列伝』」フランス17世紀の歴史画を生んだ文書の典拠として、プルタルコス『対比列伝(英雄伝)』は、筆頭に挙げられるべきものである。ギリシャの著名人とローマ著名人とを対比させつつ、現存するだけでも44編の伝記を内包したこの大著から、たとえばプッサンの《幼いピュロスの救出》、《フォキオンの葬送》、《コリオラヌス》等が生まれ、あるいはル・ブランの《カトーの死》が生まれた。本研究では、『対比列伝』ギリシャ語写本がイタリアのフィレンツェに

もたらされた後、それがどのようにラテン語訳され普及を遂げ、そこから16世紀フランスでどのように、仏語訳されて画家の典拠になり得たかを、一次資料に基づいて追跡した。

栗田秀法 論文「プッサン作《アルカディアの牧人たち》(ルーヴル美術館蔵) : 「知恵」と「恒心」のテーマをめぐって」  
銘文解釈をめぐるパノフスキーの議論から現在に至る研究史の中で依然としてその役割に議論が残る画面右端に登場する高雅な女性像に注目して考察を行った。「知恵」の擬人像の系譜の中で画中でのその機能について検討しつつ、銘文の「メント・モリ」のメッセージを、平静を保って受け入れるべきことを隣の羊飼い、ひいては鑑賞者に促していることを明らかにした。《マナの収集》と同様に新ストア主義の文脈に位置づけられるべきことを示唆した。

安室可奈子・論文「フランソワ・ジェラルド《パリに入城するアンリ4世》(1817年、ヴェルサイユ宮国立美術館蔵) - 作品の受容と先行研究史」ジェラルドが1817年のサロンに出品した《パリに入城するアンリ4世》(ヴェルサイユ宮国立美術館蔵)の作品研究。作品に関わる初期サロン批評史をまとめた。1975年のカウフマンの先行研究によれば、注文主のルイ18世は、王政復古期における王室とブルジョワ市民階級との共存を図ろうとして、ジェラルドに作品を注文したと指摘されている。本作品についての総合的な研究はその後発表されていない。本論考ではこうしたカウフマンの研究内容を再検証しつつ、そこでは触れられてこなかった同時代の初期資料群を詳細に分析した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

木村 三郎 「ラ・ヴリリエール邸ギャラリーとローマ古代史を描く歴史画」『日本大学芸術学部紀要』査読有 55号、2012、61-77

<http://homepage3.nifty.com/saburo-ki-mura/pdf/2012a.pdf>

栗田 秀法 「ニコラ・プッサン作《幼いピュロス王の救出(1634年)》」詩学と倫理学の交錯をめぐって』『美学美術史研究論集』査読有、24号、2010年、149-161

〔学会発表〕(計2件)

木村 三郎 「ラ・ヴリリエール邸の絵画

コレクションと建築家マンサール」2013年10月12日、日仏美術学会、日本大学芸術学部(予定確定)

安室可奈子 「フランソワ・ジェラルド《パリに入城するアンリ4世》(1817年、ヴェルサイユ宮国立美術館蔵) - 王政復古期の歴史図像」2013年10月

12日、日仏美術学会、日本大学芸術学部(予定確定)

〔図書〕(計1件)

『「17世紀フランスにおけるイエズス会の挿絵本と絵画の関係についての総合的研究」(平成19年度~21年度・科学研究費・基盤研究C・19520112・研究成果報告書)・「17世紀フランスにおける歴史画と挿絵本との関係についての総合的研究」(22年度~24年度)科学研究費・基盤研究・C・22520110・研究成果報告書』2013年9月

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

木村 三郎 「ナターレ・コンティ{神話の手引き(寓話解釈の10巻の書)}について・・・フランス17世紀絵画史研究の視点から」『日本大学デジタルミュージアム』2013,3 <http://galeriecont.cin.nihon-u.ac.jp/series.php?SID=2>

小野崎 康裕 「図像着想源としてのプルトタルコス『対比列伝』」『17世紀フラン

スにおけるイエズス会の挿絵本と絵画  
の関係についての総合的研究」(平成 19  
年度～21 年度・科学研究費・基盤研究 C・  
19520112・研究成果報告書)・「17 世紀フ  
ランスにおける歴史画と挿絵本との関  
係についての総合的研究」(22 年年度～  
24 年度) 科学研究費・基盤研究 C・  
22520110・研究成果報告書』2013 年 9  
月、p.61-83

安室 可奈子「フランソワ・ジェラール  
《パリに入城するアンリ 4 世》(1817 年、  
ヴェルサイユ宮国立美術館蔵) - 作品の受  
容と先行研究史」上記・『科学研究費・研  
究成果報告書』2013 年 9 月、p.99-122

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木村 三郎 ( KIMURA Saburo )  
日本大学・芸術学部・教授  
研究者番号：00130477

### (2) 研究分担者

小野崎 康裕 ( ONOZAKI Yasuhiro )  
川村学園女子大学・人間文化学部・教授  
研究者番号：30194608

栗田 秀法 ( KURITA Hidenori )  
名古屋芸術大学・准教授  
研究者番号：10367675

安室 可奈子 ( AZUCHI Kanako )  
日本大学・芸術学部・講師  
研究者番号：10419749

### (3) 研究協力者

鯨井 秀伸 ( KUJIRAI Hidenobu )  
愛知県美術館・美術課長

新畑 泰秀 ( SHINHATA Yasuhide )  
ブリヂストン美術館・学芸課長